

地球温暖化対策技術分野の論点について
(茅専門委員提出意見)

平成 16 年 3 月 1 日

人為起源の温室効果ガスの排出量は極めて大量であるため、排出抑制を図るためには回収固定にせよ再利用にせよ、最終的な処置形態を明確にした上で技術開発を行うことが必要。

新交通システム(運輸分野)、省エネ住宅(民生分野)などの導入による二酸化炭素排出抑制については、進展しているとは言い難い。技術達成目標を明確にして、ブレイクスルーを導き出すことが必要。

産業プロセスにおける廃熱の回収・利用は、工場立地の問題や、法制上の問題を含めた総合的取り組みが必要。例えば、コンビナートの建設やパイプライン敷設に伴う周辺環境への影響等が挙げられる。

非炭素燃料である水素を、再生可能エネルギーあるいは原子力により大量生産するための技術開発についての具体的検討が必要。

以上